



MeltingScreen(2010) ロー、鉄棒、DVカメラ、デジタルプロジェクタ 1200×900(mm)

「鈴木孝平 FEEDBACK 2010 - 2012 展」 無意識と暗黙 一日常性の開拓に向けて一

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

LABORATORY では2月10日から2月19日まで「鈴木孝平 FEEDBACK 2010 - 2012 展」を下記の通り開催する運びとなりました。鈴木孝平は、立命館大学映像学部在学中から映像制作を始め、自身の身の回りを観察する中で見つけた、そこに潜む無意識の存在や規則に疑問を抱き、そのリアリティを追求する作品を映像、彫刻、また自らの身体を媒体としたパフォーマンスといったように、実に様々なジャンルによる作品を意欲的に発表してきました。

初の個展となる本展覧会では、新作、旧作を併せたインスタレーション(映像作品、立体作品含む)を展示いたします。卒業という一つの節目となるこの時期に、作家自らが今までの作品を省み、向き合い、そしてあらたな日常を獲得すべく日々思考を重ね、研鑽された中で生み出された意欲漲る作品を、この機会に是非ご覧下さい。

○展覧会概要

展覧会タイトル 「鈴木孝平 FEEDBACK 2010 - 2012 展」 無意識と暗黙 一日常性の開拓に向けて一

開催日時 2012年2月10日(金) - 2月19日(日) 13:00 - 19:00

会場 LABORATORY (京都市中京区恵比寿町 531-13 RAD bld. 3F)
tel/ 075-241-9126 web/alter-laboratory.tumblr.com/

入場料 無料

オープニング サウンドアーティスト・鈴木昭男、ダンサー・宮北裕美、鈴木孝平によるオープニングパフォーマンスを行います。会場ではパライソ珈琲による美味しい珈琲とお菓子をご用意しておりますので、どなたでもお気軽にご参加下さい。

日時:2012年2月11日 18:00 - 19:00 (パライソ珈琲は13:00から開店しております。)

料金:無料(飲食は有料)

出演:鈴木昭男(日本を代表するサウンドアーティスト。常に「聴く」ことを重点とし「音と場の探求者」として活動を続け、多くの分野から注目され、国内外で活躍する。)

宮北裕美(ダンサー・振付家。ガラパゴス楽団主催。1998年頃よりダンス作品の発表を始め、ワークショップや実験的な企画を多岐に渡り行う。)

出店:パライソ珈琲(五十川あきによる出張喫茶。珈琲を飲みながら、ゆるやかに広がる会話や人とのつながりを自由に楽しめる空間を提供している。)

【展覧会によせて】

鈴木孝平の肩書きは映像作家となっているけれど、だからといって映像作品ばかりを作っているわけではない。

僕が最初に見た彼の作品は、京都市美術館の庭の木にリンゴをたくさん吊るしたものだった。ふつうそれはインスタレーションと呼ぶべきものだった。

彼の関心は、映像の内側と外側の両方にあるのではないかと思う。ここで言う内側とは、何がどのように映し出されているのか、といった映像の内容や形式を指す。それに対して外側は、どこに映し出されているのか、といった映像を取り巻く環境を指す。たとえば彼は、蠟を素材とした自作のスクリーンに火をつけ、溶けていくスクリーンに映像を上映するというパフォーマンスを行っている。そうした試みはまさに、彼の関心が映像の外側にも向かっていることを表わしているだろう。

こうした関心を反映した彼の作品は、ある特徴を持っている。その特徴とはすなわち、一回性である。複製技術によって作られる映像作品は、どこで上映してもいつも同じものが上映される。しかし鈴木作品は映像の外側、つまり映像が上映される特定の場所や時間と結びつき成立する。このことによって鈴木作品は、ある場所、ある時にしか見られないものとなるのだ。冒頭に記したリンゴの作品も、この点で鈴木作品の他の作品と共通するだろう。

さて今回の展覧会は、そんな鈴木作品の初個展である。会場となる LABORATORY はホワイトキューブだし、会期は9日間もある。場所や時間と結びつく作品を展示するには、すこし難しいようにも思える。でもそうであっても、単に映像をループ上映するのとは違った、この個展でしか見ることの出来ない何かを見せてくれるのではないかと僕はひそかに期待している。

京都市美術館 学芸員
安河内宏法



MeltingScreen(2010) ロウ、鉄棒、DV カメラ、デジタルプロジェクタ 1200×900(mm)

【展覧会にさいして-作家より-】

わたしは、主に映像作品やそれらを組み合わせたインスタレーション、映像を用いたパフォーマンスなどを行ってきました。これまでの作品制作に共通するのは、自身の身のまわりを観察し、そのことから生まれた疑問や矛盾を批評的に捉えるという姿勢でした。ここから、わたしの興味は日常へと向かいました。わたしが作品制作を通して目指しているのは、日常生活に潜む些細な事象や暗黙のルールなど、人々が強く意識することはないけれど、無意識に共有しているという状況に介入することで、それらを顕在化させることです。わたしは、このことを通じて既知の事象を主体化することができるのではないかと、つまり、自分自身で物事の現実味(=確からしさ?)を獲得することが可能になるのではないかと考えています。本展覧会では、こうした態度から制作した作品をいくつか展示することで、これまでの自身の活動を振り返るとともに、わたしたちの日常生活-ときにそれは厳しいものであるけれども-の豊かさを確認していきたいと思えます。

鈴木 孝平

【プロフィール】

鈴木孝平

1989年神奈川県厚木市生まれ 京都市在住

立命館大学映像学部 在学。2012年より京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻 入学予定。日常の些細な事象や暗黙のルールに対する批評的なアプローチとして、映像を用いたインスタレーションやパフォーマンスなどを行なう。



01



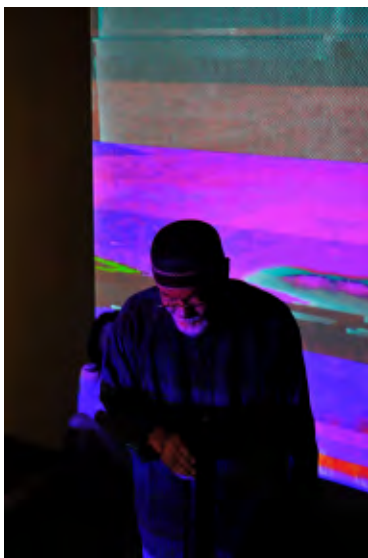
02



03



04



05



- 01 わたしの自由とあなたの不自由について (2011)
カラーコーン、コーン・バー
W,10000×D,15000×H,600
- 02 忘我 (2011)
リンゴ、真鍮釘 W,80×D,80×H,6.5
- 03 ぼくたちはどうすれば友達になれるか (ベルリン) 2011
SD video/ Stereo / 11min
撮影：パブロ・ミュレー

- 04 Cut piece (2011) UrBANGUILD
ハサミ、椅子
- 05 空っぽ「ぼんぼこりん♪」vol.6 (2011) パフォーマンス風景
プロジェクター、ビデオカメラ、RCA ケーブル
音：鈴木昭男
ダンス：宮北裕美
映像：鈴木孝平（一部）/ 小金沢健人（二部）

2010

- ・「水辺の芸術祭」 10月3日, 島根県立美術館裏 宍道湖沿岸 (島根県松江市)
MeltingScreen/2010/ ロウ、鉄棒、DVカメラ、デジタルプロジェクタ
- ・「こみまる 2010」 10月25日-11月6日, 吹田歴史文化まちづくりセンター 浜屋敷 (大阪)
MeltingScreen/2010/ ロウ、鉄棒、DVカメラ、デジタルプロジェクタ
- ・「アート亀山 2010」 10月31日-11月7日, 法因寺 (三重県亀山市)
MeltingScreen/2010/ ロウ、鉄棒、DVカメラ、デジタルプロジェクタ

2011

- ・「野外造形展-遭遇領域」 3月28日-4月17日, 京都市美術館敷地内
日常/2011/ サイズ可変 / ミクストメディア
- ・マレビトの会 (松田正隆主宰) 「マレビト・ライブ」 プロジェクトメンバーとして参加
4月-8月, 京都市内各所で公演
- ・第38回 現代美術 - 茨木 2011 展 (大阪)
6月1日-5日, 茨木市生涯学習センターきらめきホール・ホワイエほか (大阪)
わかること /2011/ 軍手、1円玉、紙
- ・「こみまる Show 3rd」 招待作家として参加
6月19日-23日, 吹田歴史文化まちづくりセンター 浜屋敷 (大阪)
わたしの自由とあなたの不自由 /2011/ カラーコーン、コーン・バー
- ・「Ur 食堂 LIVE! ~ Boya Suzuki x Ur 食堂 ~」
9月27日, UrBANGUILD (京都)
- ・「NIME Night in KYOTO vol.2」ゼミによる企画イベント
10月18日, UrBANGUILD (京都)
Cut Piece/2011/ ハサミ、椅子
- ・空っぽ「ぼんぼこりん♪」 vol.1-6 (企画: 鈴木昭男・宮北裕美)
5月-11月 (月に一度開催), hanare x Social Kitchen (京都)
○ vol.1-5 videography として参加 ○ vol.6 映像パフォーマンスゲストとして参加
- ・文化庁メディア芸術祭 京都展 「私のパラレルワールド - 世界の誰もが知らない私」 展
11月11日-23日, Gallery PARC (京都)
himatsubushi0920/2011/HDvideo/silent/1min

受賞歴

- 「こみまる 2010」 佳作 (2010)
- 「私のパラレルワールド - 世界の誰もが知らない私」 展 優秀賞 (2011)
- 立命館大学 父母教育後援会表彰制度 学部長優秀賞 (2011)
- 「遭遇領域-野外造形」 展 京都新聞社賞 (2011)